

事業所名	I Le 与儀 ユージン	支援プログラム (参考様式)	作成日	令和8 年 3 月 5 日			
法人 (事業所) 理念	「子どもたちの未来を支え、医療と教育の架け橋に」						
支援方針	発達障害専門クリニック (法人内) との連携を図り、医療的知識と心理学を活用し、愛着形成や感覚統合、言語訓練などの多角的なアプローチを行います。また、家庭や学校、地域社会とも協力しながら、全ての子どもたちが安心して成長できる環境を創造します。						
営業時間	9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の形成を目指し、「身支度」「食事」「トイレトレーニング」の支援を行います。 視覚的なスケジュール表やルーチン化した活動を用い、子どもたちが安心して日々の生活を送れるようサポートします。 偏食や食事に関する課題については、子どもの発達特性や感覚過敏を考慮し、臨床心理士や医師と相談して支援方法を検討します。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 感覚統合療法を取り入れ、体のバランス感覚や手先の器用さを向上させる活動を計画します。 サーキット運動やリズム遊びを通じ、運動機能の発達と情緒の安定を支援します。 運動が苦手な子どもには、視覚や触覚を用いた補助を行い、成功体験を積み重ねられるよう工夫します。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 注意欠如や多動性を持つ子どもには、短時間で集中できる課題を設定し、成功体験を重ねることで自己肯定感を高めます。 視覚的な指示カードやタイマーを活用し、自分で課題を進められる力を育成します。 問題行動が見られる場合は、行動分析を行い、適切な環境調整とスモールステップでの目標達成をサポートします。 					
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の発達が遅れている子どもには、絵カードやジェスチャーを活用し、コミュニケーションの基盤を育てます。 他者とのやり取りを促進するために、ペアや小グループでの活動を計画します。 言語聴覚士による個別の言語訓練を行い、語彙力の向上や会話のキャッチボールを促します。 					
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を通じて、順番を待つことや、他者の気持ちを理解する力を養います。 社会的ストーリー (Social Stories) を用いて、新しい場面への対応スキルを身につけます。 年齢や発達に応じた遊びや共同作業を通じて、協調性や集団行動への適応を促します。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向けのサポート 定期的な面談を通じて、家庭での具体的な対応方法 (視覚的サポートやスケジュール管理など) を助言。 保護者が抱える不安や悩みについて、心理士や医師が個別相談を実施。 <ul style="list-style-type: none"> 兄弟児への支援 兄弟児が感じる葛藤や不安を和らげるためのグループセッションを提供。 兄弟と一緒に参加できるイベントを実施。 兄弟にも配慮した家庭での役割分担や声かけの方法を提案。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 保育所・学校への移行支援 教員や保育士への子どもの特性や対応方法に関する情報提供や研修を実施。 入学・進級時に使用する視覚支援ツール (例: 学校での1日の流れを示すイラストスケジュール) を作成。 ライフステージの切り替え支援 子どもの発達段階や家族の希望に応じた中長期の目標設定を行い、それに基づいた計画を作成。 子どもの将来の生活自立や社会参加に向けた基盤を作るため、生活技能訓練 (例: 簡単な料理や買い物の練習) を実施。 地域の育ちの場や生活の場への移行支援 地域の児童館や子育て支援サークルへの参加を推奨し、子どもが地域社会に慣れる機会を提供。 地域活動 (例: 公園での遊びイベントや地域清掃) を通じて、社会的スキルの向上を図る。 				
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援 地域住民との共同活動 (事業所イベント開催・招待、地域の伝統行事への参加) を企画し、子どもたちが社会とつながる経験を提供。 他の福祉施設や専門機関との連携を通じて、子どもに適した療育環境を広げる <ul style="list-style-type: none"> クリニックとの直接的な連携 クリニックに通院中の子どもに関しては、医師や臨床心理士が療育の進行状況や課題を定期的にモニタリングし、デイサービスの職員と情報共有を行います。 個別支援計画に基づいた療育内容が、クリニックでの診断や治療方針と整合性が取れるよう、毎月または必要に応じたケースカンファレンスを実施します。 発達検査や心理評価の結果を基に、具体的な療育プランの作成や調整を行い、療育の効果を最大化します。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 内部研修 療育の専門性を高めるために、最新の療育手法やケーススタディを中心とした研修を定期実施。 心理士や医師が講師となり、各職員が現場で抱える課題について議論するケース会議を開催。 外部研修・情報交換 療育や発達支援に関連する外部セミナーや学会への参加を推奨。 他施設との合同研修や情報交換会を通じて、広い視点を養う。 スキル評価とフィードバック 定期的なスキル評価と個別フィードバックを通じて、職員一人ひとりの成長を支援。 新人職員に対するメンター制度を導入し、現場での即戦力を育成。 				
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 季節イベント (餅つき、夏祭り、運動会、クリスマスイベント、卒業パーティーなど) 毎月の誕生日会 						